

(様式第 9)

昭 和 大 学 病 院 第 1 4 号

月 3 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	128人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	356人	390人	434.0人	看 護 補 助 者	11人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	2人	0人	2.0人	理 学 療 法 士	8人	臨 床 検 査 技 師	72人
薬 剤 師	48人	0人	48.0人	作 業 療 法 士	3人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	0人	そ の 他	0人
助 産 師	54人	0人	54.0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	2人
看 護 師	894人	11人	896.2人	臨 床 工 学 技 士	16人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	4人
准 看 護 師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	1人	そ の 他 の 技 術 員	26人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	156人
管理栄養士	4人	0人	4.0人	診 療 放 射 線 技 師	43人	そ の 他 の 職 員	6人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	636人	0人	636人
1日当たり平均外来患者数	1,596人	17人	1,613人
1日当たり平均調剤数			521剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
副甲状腺内活性型ビタミンDアナログ直接注入療法	1人
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに 限る。)	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に 一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1)「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	31人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	12人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	22人	・原発性胆汁性肝硬変	34人
・全身性エリテマトーデス	211人	・重症急性膵炎	21人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・再生不良性貧血	33人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	18人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	4人	・特発性間質性肺炎	4人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	113人	・網膜色素変性症	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	69人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	5人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	152人	・神経線維腫症	1人
・大動脈炎症候群	7人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	0人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	5人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	77人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	15人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	38人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	17人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	13人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	14人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	2人	・黄色靭帯骨化症	5人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	20人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月に2回開催
部 検 の 状 況	部検症例数 64 例 / 部検率 12.0 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
1	脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	有賀 徹	救急医学	1,000,000	補	厚生労働省
2	包括的脳卒中センターの整備に向けた脳卒中の救急医療に関する研究	有賀 徹	救急医学	700,000	補	厚生労働省
3	自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究	三宅 康史	救急医学	750,000	補	厚生労働省
4	実験的マウス頭部外傷モデルにおけるエダラボンの一酸化窒素消去能について	宮本 和幸	救急医学	900,000	補	文部科学省
5	実験的真珠腫モデルを用いた真珠腫上皮細胞のアポトーシスに関する研究	比野平 恭之	耳鼻咽喉科学	900,000	補	文部科学省
6	ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究	廣石 和正	消化器内科学	1,500,000	補	厚生労働省
7	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	廣石 和正	消化器内科学	2,000,000	補	厚生労働省
8	肝がん新規治療法に関する研究	廣石 和正	消化器内科学	2,000,000	補	厚生労働省
9	門脈血行異常症に関する調査研究	馬場 俊之	消化器内科学	600,000	補	厚生労働省
10	C型肝炎ウイルス感染防止が可能なヒト型感染中和抗体の開発	伊藤 敬義	消化器内科学	3,000,000	委	厚生労働省
11	C型肝炎・肝癌の新規ワクチン療法を目指した細胞障害性T細胞エピトープの網羅的解析	廣石 和正	消化器内科学	1,000,000	補	文部科学省
12	C型肝炎ウイルスのB細胞感染・吸着が惹起する病原性発現機構の解析	伊藤 敬義	消化器内科学	1,000,000	補	文部科学省
13	胎児新生児期の栄養環境がもたらす活性酸素・NOストレスと生活習慣病発症との関連性	土橋 一重	小児科学	500,000	補	文部科学省
14	早産低出生体重児の生活習慣病発症の早期リスク予知に関する検討	板橋 家頭夫	小児科学	600,000	補	文部科学省
15	HTLV-I 母子感染予防に関する研究:HTLV-I 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	板橋 家頭夫	小児科学	14,000,000	補	厚生労働省
16	重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究	板橋 家頭夫	小児科学	2,000,000	補	厚生労働省
17	食物アレルギーの発症要因の解明および耐性化に関する研究	板橋 家頭夫	小児科学	1,500,000	補	厚生労働省

(注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3. 「補助元又委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元又委託元
18	母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	板橋 家頭夫	小児科学	400,000	補	厚生労働省
19	小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究	板橋 家頭夫	小児科学	455,000	補	厚生労働省
20	乳幼児期のアレルギー疾患の発症要因の集学的解析と発症予防法の開発研究	石川 良子	小児科学	1,500,000	委	厚生労働省
21	HTLV-I 母子感染予防に関する研究:HTLV-I 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	水野 克己	小児科学	1,500,000	補	厚生労働省
22	慢性腎臓病(CKD)に関する普及啓発のありかたに関する研究	秋澤 忠男	腎臓内科学	654,000	補	厚生労働省
23	戦略研究(腎疾患重症化予防のための戦略研究)	柴田 孝則	腎臓内科学	800,000	補	厚生労働省
24	ラット腎不全モデルにおけるチロシンキナーゼ阻害薬の腎不全抑制効果	伊與田 雅之	腎臓内科学	1,000,000	補	文部科学省
25	腎不全病態下における新たな血管石灰化プロセス:エラスチン分解の意義	溝渕 正英	腎臓内科学	900,000	補	文部科学省
26	自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究	岡島 由佳	精神神経科学	50,000	補	厚生労働省
27	術前化学療法後乳がん症例に対するセンチネルリンパ節生検の標準化に関する研究	中村 清吾	乳腺外科学	7,329,000	委	厚生労働省
28	遺伝子田型解析による乳癌ホルモン療法の有効性及び副作用予測診断システムの確立	中村 清吾	乳腺外科学	4,500,000	補	厚生労働省
29	がん医療水準均てん化推進事業 専門分野研究者研究会	中村 清吾	乳腺外科学	684,670	補	厚生労働省
30	再発リスクに応じた適正な乳がん局所療法確立に関する研究	明石 定子	乳腺外科学	569,882	補	厚生労働省
31	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	飯島 正文	皮膚科学	4,000,000	補	厚生労働省
32	放射線治療期間の短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	加賀美芳和	放射線科学	2,790,000	補	厚生労働省
33	放射線治療の期間短縮に関する研究	加賀美芳和	放射線科学	500,000	委	厚生労働省
34	がん診療ガイドラインの作成(新規・更新)と公開の維持およびその在り方に関する研究	加賀美芳和	放射線科学	300,000	補	厚生労働省

(注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
35	飲水と経口陰性造影剤を併用した磁気共鳴尿路造影の臨床的有用性の検討	後閑 武彦	放射線科学	1,600,000	補	文部科学省
36	神経ペプチドPACAPの成体網膜神経幹細胞への作用と網膜神経再生機構の解明	關 保	眼科学	1,000,000	補	文部科学省
37	眼内圧受容器の存在と緑内障発症機序の組織学的検討	荻野 大	眼科学	1,600,000	補	文部科学省
38	未熟児網膜症に対する抗VEGF抗体の新たな投与方法の効果と安全性を検討する研究	齋藤 雄太	眼科学	1,400,000	補	文部科学省
39	ウェルナー症候群の病態把握治療指針作成と新規治療法の開発を目的とした全国調査	吉本 信也	形成外科学	500,000	補	厚生労働省
40	創傷治癒過程における炎症細胞の役割を探る－人工皮膚モデルを用いて－	加王 文祥	形成外科学	1,400,000	補	文部科学省
41	肝斑の治療戦略を探る－肝斑培養皮膚モデルを用いて－	渡辺 あずさ	形成外科学	1,500,000	補	文部科学省
42	アレルギー疾患の予後改善を目指した自己管理および生活環境改善に資する治療戦略の確立に関する研究	足立 満	呼吸器・アレルギー・内科学	900,000	補	厚生労働省
43	標準療法不応の肺がんにも有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開	廣瀬 敬	呼吸器・アレルギー・内科学	3,000,000	補	厚生労働省
44	喫煙者肺扁平上皮癌におけるメタロプロテアーゼによるEGFR-TKI耐性機構の検討	白井 崇生	呼吸器・アレルギー・内科学	600,000	補	文部科学省
45	進行非小細胞肺癌患者に対するエルロチニブの有効性や副作用に影響を与える因子の探索	廣瀬 敬	呼吸器・アレルギー・内科学	1,800,000	補	文部科学省
46	腫瘍壊死因子の誘導する肺障害における上皮成長因子受容体トランス活性化機構の検討	山岡 利光	呼吸器・アレルギー・内科学	600,000	補	文部科学省
47	女性における生活習慣病戦略の確立－妊娠中のイベントにより生活習慣病ハイリスク群をいかに効果的に選定し予防するか	関沢 明彦	産婦人科学	500,000	補	厚生労働省
48	強出力集束超音波の胎児治療へ向けての基礎的検討	市塚 清健	産婦人科学	900,000	補	文部科学省
49	プレバイオティックスを用いた早産ならびに胎児脳障害抑止機序の基礎的・臨床的検討	大槻 克文	産婦人科学	900,000	補	文部科学省
50	母体血中有核赤血球の効率的回収法とその無侵襲胎児診断への応用に関する研究	松岡 隆	産婦人科学	2,100,000	補	文部科学省
51	妊娠高血圧症候群の発症予知と治療法の開発	関沢 明彦	産婦人科学	1,500,000	補	文部科学省

(注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3. 「補助元又委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
52	虚血性心疾患の生命予後における生活習慣改善効果とミトコンドリア遺伝子多型の影響	木庭 新治	循環器内科	900,000	補	文部科学省
53	心停止後ドナー肝からの臨床成熟肝細胞移植を目指した包括的戦略	青木 武士	消化器・一般外科学	700,000	補	文部科学省
54	顔認知コミュニケーションの神経基盤の臨床神経心理学的検討	河村 満	神経内科学	2,600,000	補	文部科学省
55	ヒトの社会行動に辺縁系が果たす役割	河村 満	神経内科学	1,500,000	補	文部科学省
56	骨髄幹細胞の無血清培地を用いた培養系の確立と脊髄再生の評価	平泉 裕	整形外科	1,000,000	補	文部科学省
57	低濃度二酸化塩素ガスの院内感染原因微生物除菌効果の基礎的研究	吉田 耕一郎	臨床感染症学	1,300,000	補	文部科学省

合計 57件 91,682,552

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Neuroimage. 2012 ;61 : 1176-1187.	An fMRI study of reduced perceptual load-dependent modulation of task-irrelevant activity in adults with autism spectrum conditions.	太田晴久	精神医学
2	精神科 18: 234-237, 2011.	重大な他害行為がみられた精神遅滞の1例	田中宏明	精神医学
3	Acta Derma Venereol	Toxic epidermal necrolysis arising as a sequela of drug-induced hypersensitivity syndrome.	Hideaki Watanabe, Masafumi Iijima	皮膚科学
4	Br J Dermatol	Possible involvement of CD14+ CD16+ monocyte lineage cells in the epidermal damage of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis.	Hideaki Watanabe, Masafumi Iijima	皮膚科学
5	Eur J Dermatol	Critical factors differentiating erythema multiforme majus from Stevens-Johnson syndrome (SJS)/toxic epidermal necrolysis (TEN)	Hideaki Watanabe, Masafumi Iijima	皮膚科学
6	Arch Dermatol	High-mobility group box 1 protein (HMGB1) as a novel diagnostic tool for toxic epidermal necrolysis and Stevens-Johnson syndrome.	Hideaki Watanabe, Masafumi Iijima	皮膚科学
7	日皮会誌	Stevens-Johnson症候群ならびに中毒性表皮壊死症 (toxic epidermal necrolysis)の全国調査—平成20年度厚生労働科学研究費補助金(難治世疾患克服事業)重症多形滲出性紅斑に関する調査研究—	北見周, 渡辺秀晃, 末木博彦, 飯島正文	皮膚科学
8	Ann Surg	Evaluation of the Usefulness of Beast CT imaging in Delineating Tumor Extent and Guiding Surgical Management: A Prospective Multi-Institutional Study.	Akashi-Tanaka S	乳腺外科学
9	臨床外科	術前分子標的療法とセンチネルリンパ節生検	中村 清吾	乳腺外科学
10	Current Opinion in Obstetrics and Gynecology	Axillary lymph node dissection(ALND) in sentinel node positive breast cancer: Is it necessary?	中村 清吾	乳腺外科学
11	昭和医学会雑誌	乳癌ICG蛍光法によるセンチネルリンパ節生検—昭和大学病院での成績—	沢田晃暢	乳腺外科学
12	Br J Radiol	Comparison of different volumes of saline flush in the assessment of perivenous artefacts in the subclavian vein during cervical CT angiography	Takeyama N, Ohgiya Y, Gokan T, 他	放射線医学
13	Showa Univ J Med Sci	Clinical Outcomes and Prognostic Factors Associated with Survival after Balloon-occluded Retrograde Transvenous Obliteration of Gastric Varices	Uozumi S, Sai S, Seino, Gokan T, 他	放射線医学

(注意) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
14	J Rheumatol	Continuation of Methotrexate Resulted in Better Clinical and Radiographic Outcomes Than Discontinuation upon Starting Etanercept in Patients with Rheumatoid Arthritis: 52-week Results from the JESMR Study	笠間 毅	リウマチ膠原病内科学
15	Transl Res.	Synergistic induction of CX3CL1 by interleukin-1 β and interferon- γ in human lung fibroblasts: involvement of signal transducer and activator of transcription 1 signaling pathways.	磯崎 健男	リウマチ膠原病内科学
16	Mod Rheumatol	Elevated serum levels of macrophage migration inhibitory factor (MIF) and their significant correlation with rheumatoid vasculitis disease activity.	若林 邦伸	リウマチ膠原病内科学
17	日産婦誌63(12), N-330-331, (2011)	常位胎盤早期剥離の診断・管理は？	関沢明彦	産婦人科学
18	日産婦誌63(12), N-270-276, (2011)	妊産婦死亡登録事例の原因分析からみた予防対策 :新しい妊産婦死亡登録制度の概要について	関沢明彦	産婦人科学
19	Methods in Molecular Biology 755, Laser Capture Microdissection (2nd Edition). Ed: Graeme I. Murray, page 477-89, Humana Press Inc. Totowa, NJ, USA, (2011)	Quantitative rt-PCR gene expression analysis of a laser microdissected placenta: an approach to study preeclampsia.	Purwosunu Y, Sekizawa A, Okai T, Tachikawa T.	産婦人科学
20	Methods Mol Biol. 2011;755:477-89. (2011)	Quantitative RT-PCR gene expression analysis of a laser microdissected placenta: an approach to study preeclampsia	Purwosunu Y, Sekizawa A, Okai T, Tachikawa T.	産婦人科学
21	厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「女性における生活習慣病戦略の確立:妊娠中のイベントにより生活習慣病ハイリスク群をいかに効果的に選定し予防するか」(平成22年度)総括・分担研究報告書 (3), 20-22 (2011)	妊娠高血圧症候群の発症予知法の開発	関沢明彦、松岡隆	産婦人科学
22	厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「わが国における新しい妊婦健診体制構築のための研究」(平成20-23年度)総括・分担研究報告書 (3), 245-253 (2011)	妊娠初期のハイリスク妊婦の抽出法の検討	関沢明彦	産婦人科学
23	Donald Sch J ofUltrasound in Obst and Gynecol. 2011 Jan;5(1):57-60	Ultrasonic studies on amniotic fluid, umbilical cord and placenta.	Ichizuka K, Hasegawa J, Matsuoka R, Okai T.	産婦人科学
24	Donald Sch J ofUltrasound in Obst and Gynecol. 2011 Jan;5(1):65-72	Ultrasonic diagnosis in preterm labor.	Ichizuka K	産婦人科学
25	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌26巻2号 Page526-529 (2011)	音声制御内視鏡ロボット(AESOP3000)の音声認識率向上に向けての発音方法の検討	石川哲也.	産婦人科学
26	J Obstet Gynaecol Res. 2011 Nov;37(11):1658-65.	Analysis of placental weight centiles is useful to estimate cause of fetal growth restriction.	Hasegawa J	産婦人科学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
27	J Obstet Gynaecol Res. 2011 Nov;37(11):1698-701.	Velamentous cord insertion caused by oblique implantation after in vitro fertilization and embryo transfer.	Hasegawa J	産婦人科学
28	J Obstet Gynaecol Res. 2011 Oct;37(10):1346-51	Prediction of risk for vasa previa at 9-13 weeks' gestation.	Hasegawa J	産婦人科学
29	Fetal Diagn Ther. 2011;30(3):203-6.	Localization of the embryo in the lower part of the gestational sac at 6-7 weeks' gestation is associated with placenta previa.	Hasegawa J	産婦人科学
30	BJOG. 2011 Nov;118(12):1464-9	Location of the placenta or the umbilical cord insertion site in the lowest uterine segment is associated with low maternal blood pressure	Hasegawa J	産婦人科学
31	J Mamm Ova Res 28, 103-109, 2011	Role of epigenetics in the placenta: Alterations in DNA promoter methylation and imprinted genes.	Koide K	産婦人科学
32	日本周産期・新生児医学会雑誌, 47(1): p. 43-49. (2011)	胎児血IGF-I, IGFBP-3ならびにVEGFの分娩ストレスによる変化に関する検討	松浦玲	産婦人科学
33	日本産科婦人科学会雑誌 研修コーナー 第63巻 第12号 P277~P281 (2011.12)	日産婦医会共同企画 症例から学ぶハイリスク妊娠への対応 Ⅱ.脳性まひと母体死亡事例の分析からみた予防対策 「4)産科医療補償制度原因分析委員会の立場から」	岡井 崇	産婦人科学
34	思春期学29(3)P239-243 (2011.9)	「思春期の月経随伴症状をめぐって」 思春期の月経困難の特徴	長塚正晃	産婦人科学
35	日本医師会誌139(10), 2079-2083, (2011)	高齢妊娠と胎児異常	関沢明彦	産婦人科学
36	東京産婦人科医会誌43, 51-53, (2011)	偶発事例報告5年間の集計より	関沢明彦	産婦人科学
37	静脈経腸栄養	小児における身体計測基準値に関する研究	菅沼理江	小児外科学
38	Pediatric and Developmental Pathology	Peripheral Neuroblastic Tumors with Genotype-Phenotype Discordance: A Report from Children's Oncology Group and International Neuroblastoma Pathology Committee	Rie Suganuma	小児外科学
39	Showa Univ J Med Sci	Clinical outcomes and prognostic factors associated with survival after balloon-occluded retrograde transvenous obliteration of gastric varices.	Uozumi M, et al	消化器内科学

(注意) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
40	Am J Gastroenterol	Clinicopathological and molecular features of colorectal serrated neoplasias with different mucosal crypt patterns.	Yano Y, et al	消化器内科学
41	PLoS ONE	DNA methylation profiles of primary colorectal carcinoma and matched liver metastasis.	Konishi K, et al.	消化器内科学
42	Endoscopy	Inverted sessile serrated polyp diagnosed by magnifying image-enhanced colonoscopy.	Muramoto T, et al.	消化器内科学
43	Hepatology	Dysfunctional B-cell activation in cirrhosis due to hepatitis C infection associated with disappearance of CD27+ B-cell population.	Doi H, et al.	消化器内科学
44	政策創薬研究事業 平成22年度 政策創薬総合研究 研究報告書	C型肝炎ウイルス感染防止が可能なヒト型感染中和抗体の開発	脇田隆宇, 伊藤敬義, 他	消化器内科学
45	厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 難治性疾患克服研究 ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究 平成22年度 総括・分担研究報告書	IFN-αと抗PD-1抗体を用いた消化器癌に対する免疫療法の検討	広石和正	消化器内科学
46	厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 肝炎等克服緊急対策研究 肝がんの新規治療法に関する研究 平成22年度 総括・分担研究報告書	肝癌における細胞性免疫応答の検討	広石和正	消化器内科学
47	政策創薬研究事業 平成21年度 政策創薬総合研究 研究報告書	感染性C型肝炎ウイルス株および感受性培養細胞ライブラリーの構築	脇田隆宇, 伊藤敬義	消化器内科学
48	厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 難治性疾患克服研究 門脈血行異常症に関する調査研究 平成22年度 研究報告書	門脈圧亢進症と免疫異常	馬場俊之	消化器内科学
49	日本臨床	前立腺癌治療内分泌療法の実際LH-RHアナログ	小川良雄	泌尿器科学
50	月刊レジデント	主委微候別ER診察の実際(泌尿器)	五十嵐敦	泌尿器科学
51	日独医報	造影CT撮影が必要とされる症例泌尿生殖器領域	小川良雄	泌尿器科学
52	泌尿器外科	泌尿器科癌領域におけるCTC(末梢循環癌)検査	直江道夫	泌尿器科学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
53	整形・災害外科	【日常診療に必要な小児整形外科の知識-先天疾患から外傷まで-】上肢の疾患 内反肘	稲垣克記	整形外科
54	Arthritis-運動器疾患と炎症-	Orthopractice 私の治療法 DEBATE Kudo TEA(Kudo Total Elbow Arthroplasty)(稲垣克記	整形外科
55	関節外科	【高齢者の手指疾患その病態と治療】手指変形性関節症に対する人工関節置換術	稲垣克記	整形外科
56	医学と薬学	【整形外科疾患の病態と治療(1)】頸部神経根症	神 與市	整形外科
57	Osteoporosis Japan	Psychological Effect of Osteoporosis Drug Formulation on Osteoporosis Patients	Takashi Nagai	整形外科
58	日本マイクロサージャリー学会誌	局所有茎脂肪弁を用いて治療した外傷後橈尺骨癒合症の治療経験	川崎恵吉	整形外科
59	日本手外科学会	橈骨遠位端骨折に対するDouble-tiered Subchondral Support法の治療成績 APTUS2.5とVariAx plateとの比較	川崎恵吉	整形外科
60	日本手外科学会雑誌	Polyaxial locking plate:VariAx plateの治療成績	上野幸夫	整形外科
61	日本手外科学会雑誌	舟状月状骨解離に対する橈骨手根骨間制動術の治療経験	富田一誠	整形外科
62	日本手外科学会雑誌	舟状骨偽関節に対する血管柄付き骨移植術の治療成績 Zaidenberg法とMakino法の比較	川崎恵吉	整形外科
63	日本骨・関節感染症学会雑誌	多剤耐性結核菌による椎体炎の一例	星 忠成	整形外科
64	日本肘関節学会雑誌	外傷後の人工肘関節置換術の成績	池田 純	整形外科
65	日本肘関節学会雑誌	スノーボードにより上腕骨顆部粉碎骨折に腕尺関節脱臼を合併した1例	岡松伸明	整形外科

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
66	整形・災害外科	橈骨遠位端骨折に対するpolyaxial locking plateを用いたcondylar stabilizing法 double-tiered subchondral support法追加の有用性	川崎恵吉	整形外科
67	日本小児整形外科学会雑誌	先天性股関節脱臼に対する広範囲展開法による観血的整復術の成績	中村正則	整形外科
68	日本小児整形外科学会雑誌	小児特発性後骨間神経麻痺の小経験	吉川泰司	整形外科
69	骨折	鎖骨骨幹部骨折(Robinson分類2B1)に対するK-wire固定術とプレート固定術の検討	澤田貴稔	整形外科
70	骨折	橈骨遠位端骨折に対するPolyaxial Locking plate:VariAx plateの治療経験	上野幸夫	整形外科
71	骨折	脊柱管内から椎間孔外に脱出した腰椎椎間板ヘルニアに対し2ポータル内視鏡下椎間板摘出術を施行した1例	根本哲也	整形外科
72	骨折	橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後に生じた腱断裂の検討	前田利雄	整形外科
73	骨折	Locking volar column distal radius plateによる橈骨遠位端骨折の治療経験	富田一誠	整形外科
74	骨折	高齢女性の背側転位型橈骨遠位端骨折に対するDouble-tiered Subchondral Support法の治療成績	川崎恵吉	整形外科
75	整形外科	脊柱管内から椎間孔外に脱出した腰椎椎間板ヘルニアに対し2ポータル内視鏡下椎間板摘出術を施行した1例	根本哲也	整形外科
76	整形外科看護	整形外科疾患の保存療法 手術入院までにどんな治療を受けてきたのか?(第18回)外反母趾	田中陽介	整形外科
77	標準形成外科 第6版 医学書院 2011. 11.	顎裂・口蓋裂	大久保文雄	形成外科
78	形成外科 54巻9号 Page983-989(2011.09)	【口蓋裂治療のupdate-初回手術の長期成績-】 軟口蓋裂に対するFurlow法	土佐泰祥, 保阪善昭, 門松香一, 木村智江, 佐藤亜紀子, 中島麦, 倉林仁美, 吉本信也	形成外科

(注意) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
79	日本形成外科学会誌 31巻11号 Page774-777(2011.11)	EEC症候群に対する上顎骨延長術の経験	塩澤佳, 三川信之, 森下裕, 吉本信也, 佐藤兼重	形成外科学
80	日本口蓋裂学会雑誌 36巻3号 Page191-201(2011.10)	Presurgical Nasoalveolar Molding(NAM)治療に対する保護者アンケート調査 満足度と現状	山本友紀, 菱田桃子, 倉林仁美, 泉朝望, 岡川ひろみ, 山屋祥子, 大久保文雄, 土佐泰祥, 門松香一, 吉本信也, 保	形成外科学
81	日本頭蓋顎顔面外科学会誌 28巻1号 Page51-58(2012.03)	Tulip flapによる外眼角再建の1例	黒木知明, 山路佳久, 長谷川正和, 吉本信也	形成外科学
82	形成外科 54巻9号 Page1041-1046(2011.09)	V.A.C.ATS治療システムとピンチグラフトにより治療した難治性潰瘍の2例	原裕太, 門松香一	形成外科学
83	形成外科 55巻1号 Page75-81(2012.01)	まれな形状を呈し顔面蜂窩織炎を来たした側頭部皮下皮様嚢腫(subcutaneous dermoid cyst)の1例	大森直子, 黒木知明, 吉田行貴, 三川信之, 佐藤兼重	形成外科学
84	日本口蓋裂学会雑誌 36巻3号 Page174-182(2011.10)	口唇裂・口蓋裂児の親の関心に関する調査	佐藤亜紀子, 澄田早織, 木村智江, 三浦真弓, 加藤正子, 大久保文雄, 吉本信也	形成外科学
85	創傷 2巻2号 Page73-77(2011.04)	新しい褥瘡洗浄器機の使用経験	三川信之, 林稔, 雑賀厚臣, 吉本信也, 佐藤兼重	形成外科学
86	日本褥瘡学会誌 13巻2号 Page171-177(2011.06)	仙骨部褥瘡に遊離分層植皮術が有効であった2症例 長期経過	小原英里, 大塚尚治, 伊部富士子, 山根麗子, 大久保文雄, 保阪善昭	形成外科学
87	Cancer Chemother Pharmacol	Phase II study of S-1, a novel oral fluoropyrimidine, and biweekly administration of docetaxel for previously treated advanced non-small-cell lung cancer	Y. Oki	呼吸器アレルギー内科学
88	Lung Cancer	Phase II trial of amrubicin and carboplatin in patients with sensitive or refractory relapsed small-cell lung cancer	T. Hirose	呼吸器アレルギー内科学
89	Eur J Cancer	Phase II trial of the combination of carboplatin and irinotecan in elderly patients with small-cell lung cancer	Y. Murata	呼吸器アレルギー内科学
90	Oncology	Evaluation of the efficacy and safety of the combination of gemcitabine and nedaplatin for elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer	T. Sugiyama	呼吸器アレルギー内科学
91	日本呼吸器学会雑誌	健康な若年女性に発症したMycobacterium kansasiiの3症例	大西 司	呼吸器アレルギー内科学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
92	人工呼吸	重症心不全患者の長時間搬送に人工呼吸器VELAを用いた症例	田中明彦	呼吸器アレルギー内科
93	日本呼吸器学会雑誌	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症を合併した肺アスペルギローマの1例	楠本壮二郎	呼吸器アレルギー内科
94	救急救命士 標準テキスト	生命倫理と医の倫理	有賀 徹	救急医学
95	救急救命士 標準テキスト	在宅療養者に対する処置	三宅 康史	救急医学
96	日本病院会雑誌	病院医療が大震災に関連した医療支援などから学ぶこと	田中 啓司	救急医学
97	薬事 3	救急医療と薬剤師の役割	中村 俊介	救急医学
98	救急救命	消防機関と医療機関の連携 救急医療機関へ搬送される傷病者の現状とその影響を考慮した救急医療機関間の再搬送に関する臨床研究	三宅 康史	救急医学
99	救急・集中治療医学レビュー 2012-13	熱中症・低体温症	三宅 康史	救急医学
100	救急救命士 標準テキスト	熱中症	三宅 康史	救急医学
101	日本病院会雑誌	多職種の間乗効果による病院医療の質向上 ～それぞれの職種が災害医療の支援にかかわる視点について～	有賀 徹	救急医学
102	救急・集中治療	熱中症	三宅 康史	救急医学
103	救急医学 12	熱中症	三宅 康史	救急医学
104	EMERGENCY CARE 11	自殺企図患者を正しくケアするために	三宅 康史	救急医学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
105	救急・ERノート 3	いまさら聞けない輸液療法の基礎ちいし気	三宅 康史	救急医学
106	腎と透析 10	ショックによる水電解質以上-成人-	三宅 康史	救急医学
107	救急医学 10	頭部外傷患者に対する頭部CT	三宅 康史	救急医学
108	第59回 日本心臓病学会学術集会 抄	「臓器の移植に関する法律」改正1年を振り返って -救急医の立場から-	有賀 徹	救急医学
109	救急医学 9	熱中症・低体温症	三宅 康史	救急医学
110	日本医事新報	節電熱中症 -Heatstroke STUDY2010からの教訓-	三宅 康史	救急医学
111	ブレインナーシング	外傷性くも膜下出血	宮本 和幸	救急医学
112	日本臨床救急医学会雑誌	救急告示医療機関数の推移と救急隊現場滞在時間の推移からみた今後の救急医療体制のあり方に対する一考察	有賀 徹	救急医学
113	肝胆膵	臓器提供施設が抱える問題点	中村 俊介	救急医学
114	レジデントノート 7	熱中症	三宅 康史	救急医学
115	脳と循環	一般救急からみた脳卒中	中村 俊介	救急医学
116	達人ケアマネ 6・7	熱中症	三宅 康史	救急医学
117	薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト	熱中症	三宅 康史	救急医学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
118	周産期医学 5	アナフィラキシーショックを起こした妊婦への対応	三宅 康史	救急医学
119	熱中症～日本を襲う熱波の恐怖～	熱中症の後遺症	中村 俊介	救急医学
120	日本臨床 4	国際コンセンサス新ガイドラインが本邦に及ぼす影響	三宅 康史	救急医学
121	Ageing & Health	緊急時の現場での対応	三宅 康史	救急医学
122	労働の科学 6	熱中症の診断と救急対応	三宅 康史	救急医学
123	消防 4	熱中症は予防できる	三宅 康史	救急医学
124	日本臨床 4	内頸静脈酸素飽和度のモニタリング	中村 俊介	救急医学
125	日本臨床 4	救急医療における終末期医療	有賀 徹	救急医学
126	神経障害性疼痛	神経ブロック療法	信太賢治、増田豊	麻酔科学
127	ペインクリニック	三叉神経節ブロック	増田豊、信太賢治	麻酔科学
128	関節外科	ブロック療法におけるステロイドの意義	信太賢治、増田豊	麻酔科学
129	Mol Cell Biochem.	MAOA, MTHFR, and TNF- β genes polymorphisms and personality traits in the pathogenesis of migraine.	Ishii M, Shimizu S, Sakurai Y, Nagamine A, Naito Y, Hosaka Y, Naito Y, Kurihara T, Onaya T, Oyamada H, Imagawa A, Shida K, Takahashi J, Oguchi K, Masuda Y, Hara H, Usami S, Kiuchi Y.	麻酔科学
130	慢性疼痛	胸部交感神経節ブロックが有用であった交感神経依存性疼痛の一症例	信太賢治・尾頭希代子・小林玲音・増田豊	麻酔科学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
131	周産期医学	特集 周産期のアレルギー —アレルギー疾患に伴う母児のリスク— 気管支喘息と麻酔のリスク	大塚直樹、安本和正	麻酔科学
132	日本臨床麻酔学会誌	デクスメトミジンをを用いた経皮的内視鏡下腰椎ヘルニア摘出術の鎮静管理	中川元文、善山栄俊、村上和歌子、大瀧礼子、遠井健司	麻酔科学
133	Medical Gases	医療ガス供給における災害対策—アンケートによる調査報告—	尾頭希代子、安本和正、武田純三、小坂橋俊哉	麻酔科学
134	昭和医学会雑誌	医療ガス供給システム	尾頭希代子、安本和正	麻酔科学
135	ペインクリニック	頭痛の診断と治療:近年の動向	岡田まゆみ、益田律子	麻酔科学
136	蘇生	転倒でくわえていた箸が喉に突き刺さり、先端が延髄下部の硬膜まで到達した小児事故例	角田博、出原郁、安本和正	麻酔科学
137	看護技術	安全な気管吸引の手技	桑迫勇登	麻酔科学
138	ナーシングケアQ&A	人工呼吸器関連肺炎(VAP)を防ぐためのケアのポイントは何?. 全科に必要な重症患者ケアQ&A	桑迫勇登	麻酔科学
139	日本歯科麻酔学会誌	挿管困難症例にはクーデックビデオラリノスコプよりグライドスコプのほうが有用である	吉川華恵、幸塚裕也、松村麻里、本橋研、吉村節、飯島毅彦、村上和歌子、桑迫勇登	麻酔科学
140	昭和医学会雑誌	アミノ酸前投与は術中体温低下を防止できるか	小林玲音	麻酔科学

(注意)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 有賀 徹
管理担当者氏名	管理課長 山川 中

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院日誌は管理課、それ以外は診療録管理室に保管	病院日誌は各年度ごとに保管。それ以外は1患者1ファイル及び1ジャケットまたは、1診療録単位に診療記録をファイリングし外来・入院・X線写真を区分して保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
	高度の医療の研修の実績	管理課
	閲覧実績	診療録管理室
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項各号及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部門
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部門
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	管理課および薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	管理課および薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	管理課および薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課および薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	管理課および放射線部	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課および放射線部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課および放射線部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課および放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 有賀 徹
閲覧担当者氏名	管理課長 山川 中
閲覧の求めに応じる場所	診療録管理室他

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	59.3%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		13,984人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,813人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		6,620人
	D: 初診の患者の数		40,821人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：1) 医療安全に関する基本的な考え方 2) 安全管理の体制確保 3) 医療事故等の院内報告制度 4) セーフティーマネージャーの配置 5) 職員研修の実施 6) 医療事故対応マニュアル 7) 患者からの相談への対応 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容：医療事故等の防止、安全管理体制の確保	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容：4月27日 テーマ「活用しようポケットマニュアル」参加者1074名、DVD視聴701名 6月10日 テーマ「医療機器の安全使用」参加者932名、DVD視聴76名 7月12日 テーマ「医薬品の安全使用」参加者532名、DVD視聴81名 10月24日 テーマ「最近の医療ガス事故例」参加者448名、DVD視聴87名 1月24日 テーマ「部署の安全活動自慢発表」参加者221名	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： インシデント事例は、テーマ別分科会において横断的に編成された分科会委員（各部署リスクマネージャーがテーマ別分科会で検討された分析・改善策について、MSM委員会へ報告する。MSM委員会で報告に基づいて医療事故の防止対策業務改善の検討及び推進を図る。 アクシデントについては、医療安全・管理対策委員会において問題点の分析と対応及び改善策を検討する。問題点の分析及び改善策は、各種委員会で報告する。	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (11) 名 ・ 活動の主な内容： 1) 医療安全対策の推進に関すること。 <li style="padding-left: 20px;">2) 医療事故に関する報告窓口業務。 <li style="padding-left: 20px;">3) 医療事故に関する初期情報収集と対応。 <li style="padding-left: 20px;">4) 医療事故等の原因究明と必要な指導を行うこと。 <li style="padding-left: 20px;">5) 医療安全管理について職員への教育及び周知徹底業務。 <li style="padding-left: 20px;">6) 医療安全管理・対策委員会の議事録に関する業務。 <li style="padding-left: 20px;">7) 訴訟に関する業務。 <li style="padding-left: 20px;">8) 当該事故関係医療従事者を支援すること。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容：趣旨、基本的な考え方、病院感染防止の体制確保、病院感染等の院内報告制度、感染リンクナースと感染リンクドクターの配置、職員研修の実施、その他の感染防止対策推進のために必要な基本方針としてマニュアルの周知徹底・医療安全管理対策委員会との連携・指針の閲覧からなる項目で構成している。 平成24年2月に病院感染防止の体制確保を改訂した。クオリティマネジメント部を発足し、下部組織として感染管理部門をおいた。 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容：多剤耐性菌感染症発生報告、転帰報告、感染症発生報告、針刺し事例報告、感染情報レポート報告、ICTラウンド報告、抗MRSA薬使用症例数報告、カルバペネム系抗菌薬長期使用症例件数報告からなる報告事項と、報告内容で調査検討が必要な事項の検討。ICTから出される検討事項の討議、マニュアルの改訂、追加、修正の検討。職員教育の実施状況と出席状況の確認。感染関連の消毒薬や安全器材の選定。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 4月27日 テーマ「標準予防策について」参加者1074名、DVD視聴701名 6月10日 テーマ「麻疹と水痘」参加者932名、DVD視聴76名 7月12日 テーマ「薬剤耐性菌と院内の感染状況」参加者532名、DVD視聴81名 10月24日 テーマ「インフルエンザについて」参加者448名、DVD視聴87名 1月24日 テーマ「廃棄物処理の現状と分別方法」参加者221名 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) <ul style="list-style-type: none"> 感染症発生報告書を改訂し、抗MRSA薬使用と培養結果の両方から感染事例と新規発生(保菌を含む)事例を拾い上げられるようにした。 その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 手指衛生の遵守率を向上するため、WHOが推奨する手指衛生ガイドラインを活用し、手指衛生のコンプライアンスを向上させるための方策を取っている。具体的な方法として、ガイドラインが提示する手指衛生の5つのタイミングを教育や研修に組み込み込んでいる。教育や研修の評価とコンプライアンス向上のため、評価ツールを使用し、観察法による他者評価で手指衛生の遵守率を測定している。手指衛生の5つのタイミングの遵守率を、感染リンクナースや病棟責任者、感染対策委員会などで報告し、フィードバックを行っている。 	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>全 職 員 対 象：1) 医薬品の安全使用（7月実施予定であったが節電のため延期中）</p> <p>新臨床研修医対象：1) 医薬品適正使用のための取扱いと注意事項 2) 医薬品の副作用</p> <p>新任看護師対象：1) 薬剤の基礎知識、注意点 2) 麻薬・向精神薬などの重点管理薬について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有) 無)</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>第1章 教育・研修 第2章 事故発生時の対応 第3章 外来および入院患者への医薬品の使用と管理 (患者に対する与薬や服薬説明に関する事項) 第4章 医薬品情報の収集・管理・提供 (医薬品の安全使用に係る情報の取扱い) 第5章 医薬品の採用 (医薬品の採用・購入に関する事項) 第6章 医薬品の管理 (購入管理と供給管理) 第7章 当院における医薬品の適正使用の管理 (患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項) 第8章 薬剤管理指導 第9章 他施設との連携 (他施設との連携に関する事項)</p> <p>・業務の実施状況：毎月、薬剤部セーフティーマネージャーと医薬品安全管理責任者が上記業務内容を巡視し確認。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無)</p> <p>造影剤の副作用のうち軽微な事例は、放射線部門より薬剤部に情報提供される（重篤な副作用事例は、厚生労働省に報告し、医療安全管理室で情報共有）。報告された副作用情報については、医薬品安全管理責任者から医療安全部門に1回/月報告する。</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①救急カートの運用変更:いつでも即座に使用可能な状態にカート内の医薬品、物品等を取り揃えた状態で救急カートを紙テープで封印。</p> <p>②医薬品の注意喚起内容の説明と診療録への確実な記載:「自動車の運転など危険を伴う機械の操作に従事させない旨、注意喚起のある医薬品」を使用する場合、患者さんに十分説明したうえで診療録に記載。</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・研修の主な内容：人工心肺装置及び補助循環装置の安全使用 人工呼吸器の安全使用 血液浄化装置の安全使用 除細動装置の安全使用 閉鎖式保育器の安全使用 診療用高エネルギー放射線発生装置の安全使用 診療用放射線照射装置の安全使用	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・計画の策定 (有 無) ・保守点検の主な内容：各医療機器の添付文書に記載されている年間回数及び点検項目に基づいて医療スタッフもしくは外部委託における点検を実施している。特に、人工心肺装置、人工呼吸器の一部、血液浄化装置の一部、除細動装置の一部、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置については外部委託を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無) ・その他の改善のための方策の主な内容：各医療機器メーカー及び医薬品医療機器総合機構からの情報に基づいて当院で使用している医療機器の安全管理を行っている。改修・回収情報については特定保守管理機器台帳に基づいて、各部署の責任者と連携・実施し、その内容を医療機器安全管理委員会及び医療安全管理対策委員会に報告している。また、毎月「医療機器安全ニュース」を発行し、情報の共有化を推進している。	